

鹿児島産業保健総合支援センターでは、四半期に1回、毎月初めに配信しているメールレターの内容などを中心に取りまとめて、本紙により配信しています。

### 治療と仕事のための両立支援相談窓口のご案内

当センターでは、令和2年3月に「鹿児島市立病院」と治療と仕事の両立支援事業実施に係る協定を締結し、令和2年4月以降、「両立支援相談窓口」を開設します。

医療機関への「両立支援相談窓口」は、平成30年1月以降、鹿児島市内の2医療機関（鹿児島医療センター、鹿児島大学病院）と薩摩川内市の2医療機関（済生会川内病院、川内市医師会立市民病院）に順次開設していますが、鹿児島県内では5か所目の開設となります。

#### 治療と仕事のための

### 両立支援相談窓口のご案内

鹿児島産業保健総合支援センターでは、当センターの窓口のほかに、両立支援出張相談窓口を設けています。

- ◆ がんと診断されて戸惑うばかり。会社の人にどこまで話せばいいのだろうか？
- ◆ 職場で利用できる制度や、傷病手当金など社会保険の手続きについて知りたい。
- ◆ 治療と職業生活を両立させたい。休職や復職の時期など相談に乗ってほしい。
- ◆ 職場復帰した後も仕事を続けるにはどうしたらいいのか？

相談無料

このような悩みはありませんか？ お気軽にご相談ください。

対象 働きながら治療を受けている患者さんとそのご家族、事業場担当者等

※短期で治療する疾病は除きます

#### 出張相談窓口（鹿児島市）

##### 鹿児島医療センター がん相談支援センター

鹿児島市城山町8番1号  
TEL 099-223-1151（代表）  
（平日 8：30～17：00）

【相談日時】毎月第1・3火曜日  
10：00～13：00



鹿児島産業保健総合支援センターの産業保健専門職（保健師）又は両立支援促進員が対応いたします。出張相談窓口には、これらの専門家を派遣いたします。



##### 鹿児島大学病院 地域医療連携センター

鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
TEL 099-275-6862  
（平日 8：30～17：00）

【相談日時】毎月第3木曜日  
10：00～12：00



##### 鹿児島市立病院 がん相談支援センター

鹿児島市上荒田町37-1  
TEL 099-230-7000（代表）  
（平日 8：30～17：00）

【相談日時】毎月第4木曜日  
10：00～12：00



#### 出張相談窓口（薩摩川内市）

##### 済生会川内病院 がん相談支援センター

薩摩川内市原田町2-46  
TEL 0996-23-5221（代表）  
（平日 9：00～12：00  
13：00～16：00）

【相談日時】毎月第2木曜日  
10：00～12：00



事前予約の場合は  
日曜調整のうえ対応します

##### 川内市医師会立市民病院 患者サポートセンター

薩摩川内市永利町4107-7  
TEL 0996-22-1111（代表）  
（平日 9：00～17：00）

【相談日時】毎月第4木曜日  
13：00～15：00



事前予約

#### 常設相談窓口

鹿児島産業保健総合支援センター 鹿児島市上之園町25-1 中央ビル4階  
TEL 099-252-8002  
FAX 099-252-8003



事前に電話等でご予約の上、相談窓口にお越しください。  
ご予約は、鹿児島産業保健総合支援センター又は各病院にお問い合わせください。

新型コロナウイルス感染症に関する情報

新型コロナウイルス感染症に関する情報は、厚生労働省ホームページでご確認ください。

ホームページアドレス

<https://www.mhlw.go.jp/index.html>



(主な内容)

- ◎ 国内の発生状況
- ◎ 政府の対策について
- ◎ 国民の皆さまへ(予防・相談)
- ◎ 働く方と経営者の皆さまへ
- ◎ 新型コロナウイルス感染症に関する Q&A etc.



奄美大島で職場巡視研修会を開催しました！（株式会社奄美大島開運酒造）

令和2年2月22日(土)、株式会社奄美大島開運酒造様のご協力をいただき、奄美大島で6年ぶりに職場巡視研修会を開催しました。当日は、沖永良部島からの参加者を含め6名の産業医が参加されました。

有意義な研修会となりました。ご協力ありがとうございました。

本社事務所外観



工場内巡視風景



会社概要等説明風景



音響熟成中

この会社の焼酎は、貯蔵タンクに取り付けたスピーカーから約3カ月、交響曲などクラシック音楽を流す『音響熟成』というゆっくり焼酎を熟成させることが特徴です。

**産業保健相談員からのメッセージ****●「親性（おやせい）」について**

産業保健相談員 山喜 高秀（担当分野：カウンセリング）

毎日のように、悲惨極まりない虐待の報道が流れ、虐待をした親の養育の問題が社会に突き付けられています。いったい親になるとはどういうことなのでしょう？

人は、この世に子どもとして誕生し、親はもとより周囲の多くの大人たちや子どもたちの中で大人へと育ち、いつしか異性と巡り合い子どもが生まれたら自らも親と呼ばれる者になります。人の一生（発達）を鯨岡（2001）※は、『「育てられる者」として誕生した子どもがいつしか「育てる者」に役替わりし、わが子を育て、わが子の成長を見守りながらおのれ自身も心的成熟を遂げ、前の世代を看取り、後続する世代に看取られてこの世から去るということである』と、端的に示しています。

しかし、子どもを育てる親になるということは、必ずしもたやすいわけではありません。「育てる者」に役替わりするためには、しっかり「育てられる者」としての過程を経なければなりません。子どもを先々親になれるように育てる親の養育態度や心性を「親性（おやせい）」と表現したいと思います。ここでは、胎児から幼児に至る間の「親性（おやせい）」について述べたいと思います。

**① 胎児の頃**

生まれてくる子について想像を膨らませ、お腹の中のわが子に話しかけ、おなかの中の動きに合わせて手を当てながら、つながりを求めようとする心情に満ち始めることができる。

**② 乳児の頃**

やりたいことがあっても、夜中にいくら眠くても、さらに心身の調子が多少悪くても、わが子の生き死に心を尽くす。子育てはかならずしもたやすいわけではないが、深い喜びや楽しみももたらしてくれると思える時を味わえる。

**③ 幼児の頃**

子どもと共に同じものを眺め動き関わり合いながら、人と共に生きていることのうれしさ楽しさを子どもが享受していくことを支える。子どもが自らの身体の発達という変化を、事実のこととして喜び確かに子どもに伝え返せる。

～以上のような「親性（おやせい）」を身に着けていくためには、今の世の中に何が必要で何が不要なのか、あらためて虐待者の心性を人ごとにせず、自らの問題として一人ひとり立ち止まり沈黙考する必要があるように思われてなりません。～



※鯨岡（2001）「発達と心理臨床：発達心理学から」  
5 発達臨床心理学（東京大学出版会）

**●両立支援をおこないましょう。**

産業保健相談員 小田原 努（担当分野：産業医学）

産業医として復職支援をしていますと、働く女性の乳がん患者が多いことに驚かされます。現在の乳がんの治療は手術、放射線治療、化学療法を組み合わせられて行われており、他のがん疾患と比較し、両立支援には細やかな配慮が必要だと痛感しています。私の担当している事業所の方も放射線治療を夕方に設定してもらい、2か月間1時間の早退を行い、外来での点滴は3か月に1度土曜日に設定していただき、仕事しながら治療を受けていらっしやいました。このように放射線治療は、1回数分程の照射を2、3か月行うことが多く、化学療法も術前

に行ったり、術後に行ったりされますが、1週間から3週間に1度外来で点滴等の治療を受けられることが多いようです。つまり手術以外は意外と早退や遅刻、年休を組み合わせながら働きながら治療を受けられるのですが、産業医等と相談しながら仕事と治療を両立しているケースはあるものの、やはりパートの方は退職して治療を継続されることが多く、長期の病気休暇が取れる方は休んで治療を受けている方が多いようです。おそらく困っているのは中小企業の数か月しか病気休暇制度を持たない企業の方々と、事業者の方、従業員である患者の方もどう対応したらよいかと苦慮されていると推察しています。放射線治療や化学療法は身体への影響がありますので、ぜひ産業医や鹿児島産業保健総合支援センターの相談員に相談していただきたいと考えており、また短時間勤務や時間単位の有休制度等、会社の制度の事はぜひ社会保険労務士の方等に相談していただきながら、両立支援を行っていただきたいと考えております。



## ●「ゲーム障害」という病名と対応

産業保健相談員 竹元 隆洋（担当分野：メンタルヘルス）

古くは1995年に「インターネット嗜癖」とか依存症と呼ばれてきたが、2013年米国精神医学会が「インターネットゲーム障害」と命名した。ところが2019年5月にはWHO（世界保健機関）は「ゲーム障害」という病名に統一して2022年1月より発効する予定になった。子どもから大人まで、今や爆発的に普及してますます深刻な問題が発生している。

日本の10歳～29歳の5096人の回答では2時間以上使用が30%で、この群には色々な問題が発生してくる。「ゲーム障害」の定義（診断基準）は①オンラインゲームやテレビゲームをしたい衝動が抑えられなくなり、日常生活より優先する。②健康を害するなどの問題が起きても、ゲームを続けたり、一層エスカレートしたりする。③家族や社会、学業、仕事に著しい障害をもたらされる。④こうした症状が少なくとも12か月以上続くものとした。

ゲーム障害（依存）の成因は、他の依存症とほぼ同じである。最初にゲームで勝つと面白い、興奮、快感がおこる。その時脳の中では神経伝達物質（ドーパミン）が出る。この快感記憶によってくり返しの欲求・行動がおこる。それをくり返すうちにドーパミン受容体の感受性が低下して鈍感になり快感がうすくなる。そのため、より強い刺激を求め続ける。その結果ゲームを止めることが出来なくなり依存が形成される。予防と治療としては①ゲームに関する思考（欲求）と行動を抑制すること（時間の制限）②依存ができると止められないために考え方が自己中心となり病気を否認して、問題を先送りになってしまう。病識がないので、教育・指導が必要であり、集団療法が有効③非現実の価値観に目覚め、気づかせること。④現実の人間（信頼）関係を回復するために「汝自身を知れ」という自己反省（内観療法）に導く⑤自助グループで回復した人の体験談が有効。



独立行政法人労働者健康安全機構 鹿児島産業保健総合支援センター  
〒890-0052 鹿児島市上之園町25-1 中央ビル4階 TEL099-252-8002 FAX099-252-8003